

卸売市場の役割

私たちの生活に欠かせない野菜や果物、鮮魚などの生鮮食料品と生活に潤いをもたらす切花は、
 ◇鮮度が低下しやすく傷みやすい ◇長期間の貯蔵が難しい ◇常に衛生面に気を付けなければならない
 などの工場で生産される加工食品などとは違った性質を持ち、その生産が季節や天候などの自然条件に大きく左右されるため生産量や価格が大きく変動しやすいことなどの特徴があります。
 このため卸売市場では、年間を通じて国内外から多種類の生鮮食料品などを安定的に集め【①集荷機能】、需要と供給に見合った適正な価格付けを迅速に行い【②価格形成機能】、多くの小売業者や加工業者などに商品を販売し【③分荷機能】、生鮮食料品などが新鮮なうちに市民の元に届けられるように務めています。

中央市場ミ二歴史

- 中央市場は昭和24年(1949年)10月に現在の中区加古町で業務開始。
- その後建物が老朽化し手狭となり、昭和56年(1981年)10月に地方市場であった花き市場を統合して、現在地(西部流通業務団地)に移転開場。
- 昭和59年(1984年)地方市場であった水産市場を統合して水産物部が業務開始。
- 全国でもめずらしい3部門そろった総合市場として今日に至っています。

市場のしくみ



市場で働く人々

卸売業者

全国各地の生産者から買付け、または販売委託された生鮮食料品などを、せり売や相対取引などの方法で仲卸業者や売買参加者等に卸売します。

仲卸業者

せり売や相対取引などにより、卸売業者から買い取った品物を市場内の店で小口に仕分けたり、加工して売買参加者その他の買受人に販売します。

買受人

市場から必要な品物を仕入れ、自分のお店で小売や加工をする人、飲食店を営む人などのことを言います。

売買参加者

買受人のうち、せり売に参加して品物を仕入れることができる人です。開設者への届出が必要になります。

関連事業者

市場を利用する人のために、市場内で容器包装類販売、飲食店、ガソリンスタンド等を営んでいます。

開設者

卸売市場法や条例などに基づき、取引の監督、設備の維持管理を行っています。広島市は、中央市場の他に、東部市場、食肉市場の3市場を開設しています。